

## ■ インフラメンテナンス産業の育成・拡大

社会資本整備審議会・交通政策審議会の下に設置された社会資本メンテナンス戦略小委員会において、平成25年12月の「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の答申を踏まえ、26年度には、1.「点検・診断に関する資格制度の確立」、2.「維持管理を円滑に行うための体制、地方公共団体等の支援方策」、3.「維持管理・更新に係る情報の共有化・見える化」の今後の方向性に関する提言が取りまとめられた。

このうち、1.「点検・診断に関する資格制度の確立」については、業務内容に応じた必要な知識・技術等を定め、民間資格の登録制度を創設するとともに、登録された点検・診断等の資格を27年度発注業務から活用している。

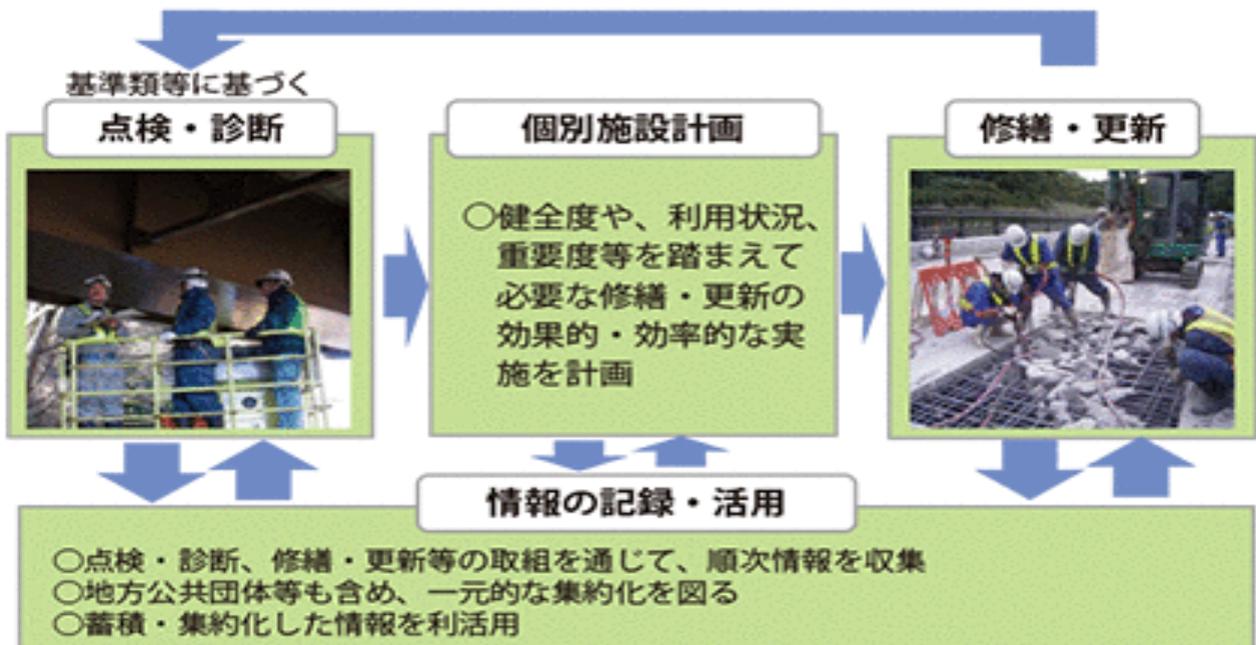
2.「維持管理を円滑に行うための体制、地方公共団体等の支援方策」については、複数の分野や施設の維持管理業務を包括的に民間に委託する手法について、地方公共団体と協力して検討を進めている。

3.「維持管理・更新に係る情報の共有化・見える化」については、インフラメンテナンス情報ポータルサイトにおいて各施設の点検の実施状況等、社会資本の維持管理情報のうち特に重要な情報の見える化を行っている。

また、メンテナンスサイクルのあらゆる段階において、多様な産業の技術やノウハウを活用し、メンテナンス産業の育成・活性化を図るため、産学官民が一丸となって知恵や技術を総動員するプラットフォームとして「インフラメンテナンス国民会議」を28年11月に設立するとともに、インフラメンテナンスに係る優れた取組みや技術開発を表彰する「インフラメンテナンス大賞」を創設した。29年度は、「インフラメンテナンス国民会議」の活動の充実・地方への展開に向けて取り組むとともに、「インフラメンテナンス大賞」の第1回表彰式を29年7月に開催した。

出典：国土交通省 HP より原文引用

個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）を核として、点検・診断、修繕・更新、情報の記録・活用といったメンテナンスサイクルを構築



資料) 国土交通省

# □弊社におけるインフラメンテナンス産業への取組み

## 1. はじめに

弊社では、インフラのメンテナンス産業の育成・拡大を後押しする3要素（①資格制度、②体制づくり、③情報の共有化・見える化）の内、③に重点を置き、3次元モデルを活用した『点検結果の見える化』に取り組んでいます。

## 2. 取組みの内容

将来的なメンテナンスサイクル（前ページ国交省の図参照）の構築も見据え、以下のようなモデリングを試みました。

### ① 3次元モデルの対象選定

◆「汎用性の高いこと」、「3次元モデルとしての検証が容易なこと」などを条件に、高速道路の高架橋を対象として選定した。

### ② 3次元画像のモデリング

◆図1に示したとおり、モデリング時の省力化をねらいとして、CADとモデリングソフトとを組合せた。また、変状のモデリングは、変状毎にA判定：赤、B判定：青とし、変状内容・判定を表記した（図2参照）。

### ③ 3次元モデルの精度の検証

◆作成した3次元モデルの精度の検証のため、以前の点検時に撮影した写真と比較した。また、応力図、補修状況の3次元モデルを作成した。その結果、

- 1) 3次元モデルにより全方位・任意の角度からの描画が可能、また拡大・縮小で『見える化』されたことで、橋梁の状況、変状の状況、応力状況の把握が直感的・容易に把握可能となることが確認された。
- 2) また、補修工事（工法、工程、仮設、規制）等をイメージしやすくなり、次の工程手順の検討が容易になることも確認された。

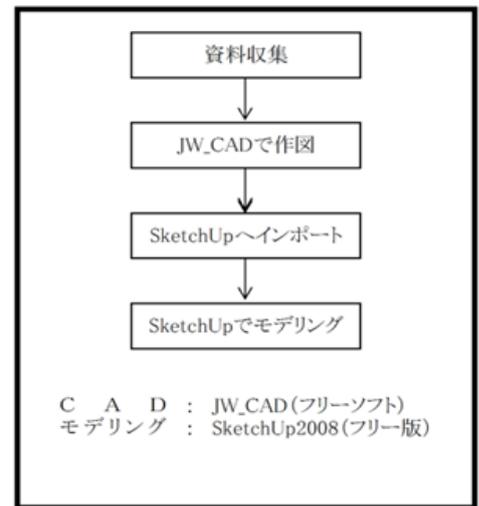


図1 モデリングの手順

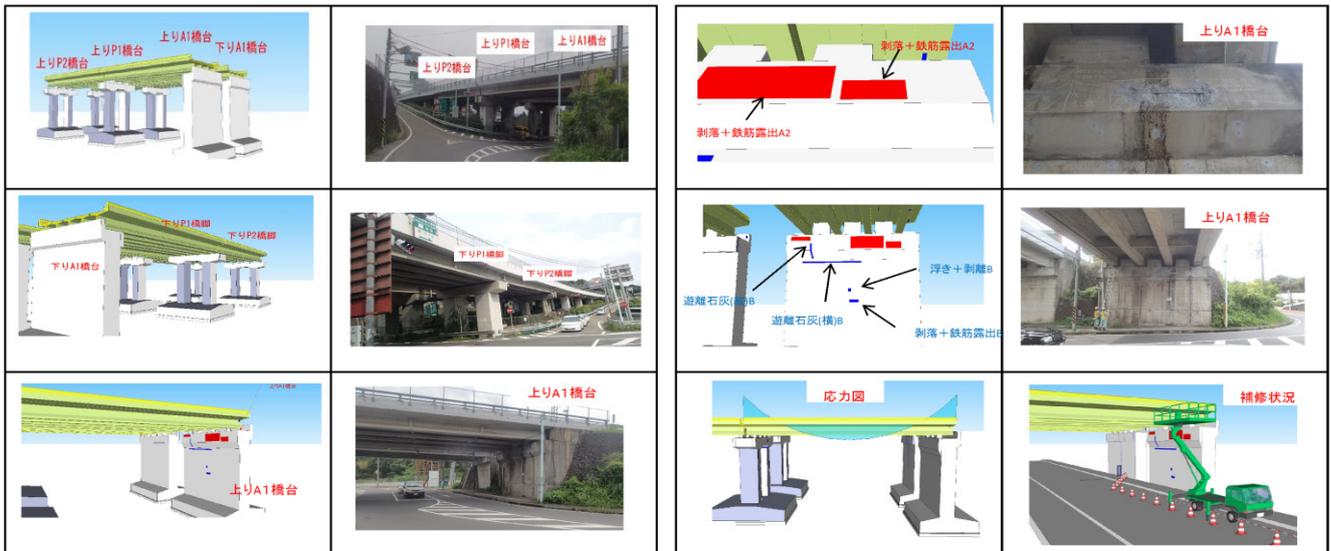


図2 3次元モデル精度の検証（点検時写真との比較）